「心のノート」中学生用『自分の人生は自分の手で切り拓こう』のイラストより

第2章 「心のノート」の効果的な活用の実際例

1 学校や家庭の日常生活での活用……18～33
2 各教科での活用……34～55
3 道徳の時間での活用……56～75
4 外国語活動での活用……76～77
5 総合的な学習の時間での活用……78～81
6 特別活動での活用……82～93
7 家庭や地域社会との連携等での活用…94～99

朝や帰りの話合いで活用する

生活の節目で生かす「心のノート」が,一日の意欲を高める

本場面におけるポイント

●**日常の活用を広げるきっかけとして**
話合いの中で「心のノート」のページを話題にすることで,子どもが「心のノート」に親しみ,日常での活用の幅を自由に広げることができる。

●**一日の生活への前向きな気持ちをもつために**
朝のすがすがしい気持ちを高める生かし方,一日を気持ちよく締めくくる生かし方などを工夫する。

●**継続的な振り返りの機会として**
朝や帰りの話合いの機会をつないで継続的に用いることで,子どもが自分の考えや行動の変化などに気付く。

「心のノート」を活用した朝や帰りの話合い(5年)

第5学年のある学級では,朝と帰りの話合いを以下のように展開している。

学級の子どもは,配布された「心のノート」をファイルに綴じておき,自分で管理している。また,一度扱った「心のノート」のページは,印刷して教室に置いておき,自由に持っていけるようにしている。併せて,教師が朝や帰りの会の話合いで「心のノート」を自由に使えることを語ることによって,活用の幅を広げるようにしている。

朝の話合いの活動

1 あいさつ
2 出欠確認・健康調べ
3 1分間スピーチ
4 モーニングタイム
　＊火曜日の朝に「心のノート」に書き込む時間を設定している。
5 先生からの話

●1分間スピーチの話題を「心のノート」の中から見つけたり,スピーチの際に「心のノート」を用いたりする工夫を助言する。

●学級全員が「心のノート」を一緒に開いて,各自が自由に見たり書き込んだりする日を週1回つくる。

「心のノート」を使ってスピーチをする子ども

帰りの話合いの活動

1 今日の一日
2 よいこと発見
3 係や日直からの連絡(らく)
4 先生からの話
5 あいさつ

●一日を振り返るときに,「心のノート」をきっかけにすることができることを伝えておく。

●その日の子どもたちの生活の様子を把握し,明日からの生活に希望がもてるような話をするときに,「心のノート」の内容を生かすこともある。

週1回の「モーニングタイム」に「心のノート」を活用することによって,その時間だけでは書けなかったことを休み時間や放課後の時間を使ったり,家に持って帰ったりして書く子どもが増えてきた。朝の時間が,子どもにとって「心のノート」の活用に見通しをもったり,自分自身を見つめたりする時間になっていると感じられた。

また,「1分間スピーチ」のときの話題が見つかりにくい子どもに,「心のノート」からヒントを見つけてみようと投げ掛けた。すると,「心のノート」を手にしながらスピーチをしたり,一日の振り返りに「心のノート」を生かしたりする子どもも見られるようになった。

なお,右のような手引を用意して子どもに働き掛けることも考えられる。

「心のノート」をこんなふうに使おう

朝の会

例 「心のノート」を使った1分間スピーチ

1 「心のノート」の○ページを開いてください。
2 ここには,‥‥が書いてありますが,わたしはこう考えます。それは,‥‥。
3 何か質問はありますか。

帰りの会

例 「心のノート」を使った今日の振り返り

■今日,こんなことがありました。「心のノート」に,‥‥と書いてありますが,わたしはこう思いました。‥‥。

「心のノート」を読んだり書いたりする「心の時間」を設定(1年)

1年生のある学級では,1週間が始まる月曜日の「朝の会」を「心の時間」とし,子どもが,「心のノート」に触れることができる機会を設けている。1・2年生用P.12「にこにこしているかな」,P.13「むねをはっていこう」,P.14～15「気もちのいい一日」など,自分の生活を見直したり,目標を設定したりするのに適したページがある。子どもたちは,「心の時間」に,「心のノート」を開いて,1週間の目標や頑張ってみたいことを自由に記入している。また,「心の時間」には,担任が子どもの書いた記述内容に寄り添ったり,共感したりしながら,子ども一人一人と対話することを大切にしている。それにより,目標設定を苦手としている子どもや何を書けばよいのか困っている子どもに対応することができる。

これまで記入したところからもう一度書いてみたい部分を選んで,新たに記入している子ども

1週間の目標を決め,「心のノート」に記入する子ども

自分が記入したページについて,友達と交流する子ども

朝の読書タイムで活用する

読書の傍(かたわ)らにある「心のノート」が,生き方を考える手助けとなる

本場面におけるポイント

●**自己の生き方を考えるきっかけとする**
傍らに「心のノート」を置き，読書を通して感じたり考えたりしたことを思い思いに記入することで，自己の生き方について考えることができる。

●**読書への興味・関心が喚起される**
「心のノート」には多くの名作からの言葉が紹介されている。
その言葉をきっかけに,読書への興味・関心が喚起される。

●**生き方についての考えを広げ深める**
「心のノート」に記入した読書記録を掲示することで，より多くの人と間接的な意見交流が可能になり，生き方についての互いの考えを広げ，深めることができる。

自由な読書での活用事例

子どもが好きな本を毎日継続的に読む朝の読書タイムで,「心のノート」を常に手元に置いておくようにした。子どもたちは,読書をしながら好きなときに「心のノート」を開いて,以下の2通りの方法で記入していた。

①中学校用P.139「私が出会った言葉／心に響いたあのひと言」のページに，読んでいる本から言葉を選び，書き留める。
②自分が感じたり,考えたりしたことを,その内容に該当するページに書く。

子どもの記入例（②感じたり考えたりした内容に該当するページに記載した例）

くじけそうなときどうする？
目標に向かって努力しようとしたが，なかなか思うように進歩しないとき，人はだれでもくじけそうになるものだ。
―― そんなとき，何が必要なのだろうか。

「スローカーブをもう一球」(山際淳司)を読んで「オリンピックに出たい」という気持ちを持ち続け、練習を続けている主人公の努力に感動しました。僕は今、バドミントン部で目標をもって取り組んでいますが、改めて、もっと努力が必要だと思いました。

中学校用P.24

楽しいこともあればぎくしゃくすることもある友達関係。ワイワイガヤガヤしているのは仲のいい証拠。でも、自分がつまずいたときや落ち込んだときにそっと力をくれる、そんな友達がいるとうれしい。生涯のたからものはきっとたくさんあるけれど、友情もそのひとつに違いない。そんな友情にもう出会っているだろうか。友情のぬくもりに触れたとき、あなたの思いを書き込んでみよう。

「タイムマシン」
(H.G.ウェルズ)を読んで主人公と出会った未来人との友情は、生涯の宝物になったと思いました。私もあのように友情をつくっていけたらいいなと思いました。
○○年△月□日

中学校用P.53

留意点　読書記録ノートではないので,毎日必ず書くというのではなく,あくまで子どもが何かを感じたり考えたりして,書きたくなったときに自由に記入するようにさせた。

課題読書での活用事例

① 指定された共通の読み物を読む読書タイムでは，小説，説明文，論説文，随筆，ノンフィクション，詩など多様な内容が選ばれるが，その読書の記録として，中学校用P.139「私が出会った言葉／心に響いたあのひと言」のページを配り，読んでいる本から言葉を選び書き留め，読書ファイルに綴じさせた。

② 「心のノート」の中にも数多く，名作からの言葉が引用されている。朝の読書タイムで，数回に分けてその作品を紹介した。その内容を含んだ「心のノート」の該当ページを配り，感じたことや考えたことを記入し，ファイルに綴じさせた。

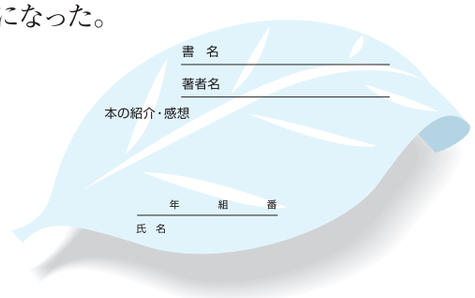
例）サン・テグジュペリ『星の王子さま』 中学校用P.12～13

読書記録での活用事例

新しい本との出会いのきっかけは，他の人からの紹介によることも多い。そこで，「中学生の間に出会いたい4つの木（枝）」として掲示板「読書の木」を作成し，葉の形をした用紙に読書記録を記入させ掲示した。

日々の読書での記録は読書ファイルや中学校用P.139に記入しておき，学級活動や朝の読書タイムなどで定期的に「まとめの時間」を設定し，用紙に記入した。

4つの「読書の木（枝）」に，内容項目を表す「心のノート」中学校用P.14～15「生きる－自分を見つめ伸ばして」，P.40～41「出会い－思いやる心を」，P.70～71「大自然－この星に生まれて」，P.88～89「自由－社会に生きる一員として」の各ページを掲示しておき，自分の読書記録を4つの視点に照らし合わせて提示させた。

子どもたちはいろいろな人の感想を読むことで，その言葉をきっかけに読書への興味・関心が喚起された。また，「読書の木（枝）」を通して出会った本を読んで，自分はどう考えたかを花や木の実の形をした追記用の用紙を使って，段階的に記入し掲示していく形をとることで，広がりのある学年の枠を越えた多くの人との交流が可能になった。

留意点　読書ファイルに，目次，中学校用P.10～11「いまここに24の鍵がある」をはさませておくことで，分類をする際の助けとなる。掲示スペースや取組を行う規模によって（学級・学年・学校），「読書の木」「読書の枝」を工夫して使い分けるとよい。また，図書委員会の読書キャンペーンや国語科の読書指導とも連携した取組が可能である。